

## 雑 録

### ○應急手當の色々

▲毒虫に螫された時、蜂其他色々の昆虫に螫されて其の部分が赤くなつて腫れ上り且痒くなり又は痛みが出て来た場合には速かに其の部分にアンモニアかアルコールかを塗る又其所に食鹽を付ても好い

▲火傷した時には直に其所にグリッソンを塗りつけ其の上を脱脂綿で掩ひ餘りいちぢらぬ様にして置くのが最も好い方法である、從來の様は飯粒や鍋炭や味噌等をつけるのは徒らに其所を不潔にするのみで却つてよろしくない

▲衄血は餘り怖るべきものでないが、其の出血が容易に歇まず且つ多量の出血ある時は意外の病氣を惹き起す事が往々ある故に若し衄血が出る時には速かに止血法を講じなければならぬ、其の最も簡単な方法は明礬水を綿に十分浸して其を鼻孔に挿し入れ靜かに寝かすか、又は冷水に浸した布片を頸部に巻きつけ十分冷するのが最も好い

▲癩癩を起した時には全く人事不省に陥りり不知不識の間に意外の變を招く事も尠くないから十分注意しなければならぬ其の病に對する急救療法は將に其の起らんとする兆があれば多量の鹽水を飲ますのである、斯くすると幾分か其病狀を軽くする事が出来る、而して發病中は常に布片等を口中に含ませ自分舌を咬む事な

き様注意しなければならぬ

▲日射病 此は烈しき日光が非常に強い燠爐の熱で起るのであるが、初めは只だ汗が流れ次で眩暈を起して卒倒し人事不省に陥るのである、此の病に犯された時には速かに冷水を頭部又は胸に注ぎ靜かに人工呼吸法を施せば蘇生するものである、又各自の豫防としては夏季ならば上部に糸孔の在帽子を被り、其の下に濡た布片を載せて旅行するのが一等である

▲吐血 吐血は胃より血を吐き咯血は肺より血を吐くのであるが何れにしても此の出血は大に注意すべきもので直に相當な醫師に頼んで十分に治療すべきであるが差當りの手段として先づ身體を安靜にして言語を禁じ若し其が咯血ならば肺部に氷嚢を置き且つ一碗の水に食鹽二匁位を和したものを四五回に飲みしむべく其が吐血の場合には胃部に氷嚢を置き氷片又は冷水を少しづつ飲みしむるのである、又吐血の時に鹽水を飲みしむるは其の刺戟のために却つて出血を増す憂があるから決して食鹽は勿論其の他刺戟性のものを服用せしめてはならぬ

### ○日用家具の取扱

▲其の質の何たるを問はず常に能保存して年月を経れば其の年月の長いだけ寧ろ新調のものよりも堅牢で且つ珍重せらるゝのである、故に其の器具の質に依り各相當な取扱法を心得て常に丁寧に保存しなければならぬ

▲銅及び眞鍮の器具は極めて微細な手落ちよりして直に綠青を

生ずるものであるが此の緑青は非常に人體に害のあるもの故餘り日常的のものではない、併し己むを得ず此を使用する時は必ず内部に厚紙層を張りなければならぬ、又使用した後其の内外に決して濕氣の残る様な事があつてはならぬ、若し少しでも濕氣があれば直に其所から緑青を生ずるから十分拭き取つた上日光で能く乾かして置かねばならぬ

▲鐵器 は銅眞鍮等とは反して非常に人身に有益なものであるから日常煮物をするには成るべく此の鐵器を用ゆるが一等である、而かも其の手入れは甚だ簡單で毎日使用する鍋釜は殊更に手入れをする必要もないが鐵瓶等は毎朝必ず湯を上から流しかけるのが一等である、しかすれば鐵の色は段々に麗しくなり且つ斑點の出る様な事も決してない

▲漆器 は如何に上等なものでも久しく濕氣にかゝつて居ると剝げ落つるものであるから水等に久しく浸して置く事はよろしくない、此を使用した時は直に能く乾きたる軟かい布巾で盛り残らぬ様十分に水氣を拭き取り一つ／＼の間に紙を入れて能く包み置かねばならぬ、殊に蒔繪のあるものは軟かな布巾で包む必要がある

▲陶器及び硝子器 は使用するに先ち釜に水を入れ其に少量の食鹽を加へ弱火でゆつくり煮るのが一番である、斯くする時は其の質が極めて鈍くなり容易に破損しない様になるのである

## ○日常食器の選擇

燒物の應用せらるゝ範圍は頗る廣く、皿小鉢の類の食器から花瓶

その他の裝飾品乃至便器等の如き衛生器具の各種に涉り其用途多様なれば、陶器と磁器の適宜得失の如きは容易に斷言し難きも、先づ日常使用する食器に關し其得失如何と云ふに、陶器製食器は器物の一角だに破損せば、氣孔性ある土壤性の素質に、滲肉汁等浸入し、不潔なる斑紋を作り、汚染する故、普通陶器たると、硬質陶器たるとを問はず、此缺點を存するを免れざるのみならず、陶器の多くには、含鉛蝕薬を用ゆるを以て、若し強き酢にて調理せるものを盛る時は、右の釉薬は酢の爲めに浸蝕せられ、食物中に鉛毒を溶入せしむるの例尠ならず、例へば淡路燒の美麗なる蓋物に、梅干を入れ置かんが、忽ち以上の浸蝕の結果を見るを得べし、又瑛瑯食器即ち瀬戸引きと俗稱せる皿等にも白色青色のエナメルの焼付け居らるゝを以て、酢にて調理せるものは絶対に盛らざるを安全なりとす、次に陶器は土壤性の素質なるを以て、破壊し易く之を防止するには、勢ひ厚手に製造するを要す、従て食器として風雅の趣を缺く事となるなり、磁器製食器は高熱火度にて燒かれ、爲めに素質熔化して氣孔性を止めざるを以て、器物の一角破壊するも、肉汁等の浸染する事なく、且つ酢の如き弱酸は勿論、他の強烈なる酸類に會するも釉薬に變化を見る如き事絶對になく、殊に高熱度にて燒かれたる結果、質強固にして器物を薄手に作るを得、形状優美なるを以て、食器としての用途は磁器の右に出づるものなく、彼の進歩せる硬質陶器も、磁器には及ばざるなり、然るに我國に於て西洋料理に用ひらるゝ食器類は今尙ほ和製或は英國製の不透明なる硬質陶器を使用し居れり、右は磁器の陶器に優れるを知るも製作比較的困難なるを以て、陶器程價

格の低廉ならざるに依るものにして、磁器の製造の貧乏せざる英米にては、主に陶器食器を用ひ、製陶業の最も發達せる獨佛にては、磁器を主に使用せり、近時日本に於ても日本磁器會社は、獨佛の製品に比し遜色なき硬質磁器を製するに至れり、製するに硬質磁器は焼物中最も進歩したるものにして、食器として最も適當のものと言ふべし

### ○齶齒の衛生

顔や身體の衛生には注意するが物を喰つても其汚れた口を洗滌するとか或は齒を磨くとかする人は殆んど絶無であるのは甚だ遺憾千萬である左に齶齒に關する注意を記さう

▲齒の天職 齒の第一の重要な職務は言ふ迄もなく食物の咀嚼である其次は良く言語を調節すること、又其次は吾々人間の相貌美と云ふこと、一大關係を有するが一旦齶齒に罹るときは其腐蝕した齶齒の中に發生した酸菌は食物或は唾液と共に腹内に這入り動もすれば恐るべき疾病を惹起する加之齶齒の痛みの爲め或は腐蝕脱落の爲め肝腎の咀嚼機關が働けぬから勢ひ食物を嚥吞にし忽ち胃腸に障礙を生じ延ては臍病やう神經衰弱やら種々な病を惹起するやうになつて来る

▲人間の齒 元來人間の齒は上下三十二枚で生涯の中に二度發生する最初に生へるのが乳齒で生後六七ヶ月より生へ初め六、七歳頃になると永久齒に生換はる齒の素質は外部の現れてる眞珠色せる部分は珪瑯質で其中に象牙質があり又其中に齒髓と云つて恰も

高野豆腐に似た者も有る是が例の血管やら神經やらを包んで保護してゐる

▲齶齒の原因 は無論食物が齒と齒との間に残留して腐敗し之が唾液と共に乳酸を生ずる此乳酸が實は非常に齒に有害なので第一に堅牢無比なる齒の外部の珪瑯質を侵蝕し次で齒髓を侵す態なつて齒醫者に駆付けても六箇十菊である即ち人工補足の外仕方がない、過般東京市内小學兒の齶齒の統計に依ると就學兒童約十二萬人中二萬まで即ち百分の七十五は齶齒だと聞いては轉た驚くの外はない其豫防が最も肝要である是とて外に六ヶ敷いことばない一言以て之を蔽へば常に口中を清淨にすると云ふことに歸着する

▲口中の清淨 は大人は重曹水或は硼酸水で能く口中を洗ひ哺乳兒はガーゼを微温湯に濕して絞り而して綺麗に口中を拭く様に幾回もすればよろしい齒磨きは餘り弱くない強過ぎない言はゞ程なき楊子で起床後と就寝前に丁寧に磨けば決して齶齒に罹る虞はない尤食事の前後に屹度之を遣ふ様にすれば是に越したことはない